

学 年

中

言葉のリズムを味わおう（百人一首1）

年 組 氏名

一、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。（「とまをあらみ」の部分は、五音として数えましょう。）

あきのたのかりほのいほのとまをあらみわがころもではつゆにぬれつつ

天智天皇

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

--	--	--	--	--	--

（意味）

秋の田のほとりの小屋で夜を明かすと、
困っているとまの目があらいので、わたし
の着物のそではつゆでぬれていくばかり
だ。

学 年

中

言葉のリズムを味わおう（百人一首1）

年 組 氏名

一、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。（「とまをあらみ」の部分は、五音として数えましょう。）

あきのたのーかりほのいほのーとまをあらみーわがころもではーつゆにぬれつつ

天智天皇

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

あきのたの

かりほのいほの

とまをあらみ

わがころもでは

つゆにぬれつつ

（意味）

秋の田のほとりの小屋で夜を明かすと、
困っているとまの目があらいので、わたしの着物のそではつゆでぬれていくばかりだ。

学 年

中

言葉のリズムを味わおう（百人一首2）

年 組 氏名

--	--	--	--	--	--

一、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。

ひさかたのひかりのどけきはるのひにしづこころなくはなのちるらむ

紀 友 則

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

（意味）

日の光がのどかにさしている春の日に、
 どうして落ち着いた心もなく、桜の花が散
 っているのだろうか。

学 年
中

言葉のリズムを味わおう (百人一首2)

年 組 氏名

一、百人一首の短歌(和歌)は、五・七・五・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。

ひさかたのーひかりのどけきーはるのひにーしづこころなくーはなのちるらむ

紀 友則

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

ひさかたの

ひかりのどけき

はるのひに

しづこころなく

はなのちるらむ

(意味)

日の光がのどかにさしている春の日に、
どうして落ち着いた心もなく、桜の花が散
っているのだろうか。

学 年

中

言葉のリズムを味わおう (百人一首3)

年 組 氏名

二、百人一首の短歌(和歌)は、五・七・五・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。「うちいでてみれば」は七音として数えましょう。」

たごのうらにうちいでてみればしろたへのふじのたかねにゆきはふりつつ

山部 赤人

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

--	--	--	--	--

(意味)

田子の浦に出てながめて見ると、真っ白な富士山の高い峰に、雪は降り続けている。

学 年

中

言葉のリズムを味わおう (百人一首3)

年 組 氏名

一、百人一首の短歌(和歌)は、五・七・五・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。「うちいでてみれば」は七音として数えましょう。」

たごのうらにーうちいでてみればーしろたへのーふじのたかねにーゆきはふりつつ

山部 赤人

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

たごのうらに

うちいでてみれば

しろたへの

ふじのたかねに

ゆきはふりつつ

(意味)

田子の浦に出てながめて見ると、真っ白な富士山の高い峰に、雪は降り続けている。

学 年

中

言葉のリズムを味わおう（百人一首4）

年 組 氏名

一、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。

あまのはらふりさけみればかすがなるみかさのやまにいでしつきかも

阿部 仲麿

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましよう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましよう。

--	--	--	--	--	--

（意味）

大空をあおいで見ると、月が出ている。
この月は、昔ふるさとの春日の三笠の山に出ている月と同じ月なのだろうなあ。

学 年

中

言葉のリズムを味わおう (百人一首4)

年 組 氏名

一、百人一首の短歌(和歌)は、五・七・五・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。

あまのはらーふりさけみればーかすがなるーみかさのやまにーいでしつきかも

阿部 仲麿

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

あまのはら

ふりさけみれば

かすがなる

みかさのやまに

いでしつきかも

(意味)

大空をあおいで見ると、月が出ている。

この月は、昔ふるさとの春日の三笠の山に出ていた月と同じ月なのだろうなあ。

学 年

中・高

言葉のリズムを味わおう（百人一首5）

年 組 氏名

一、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。（「こころもほすちよう」は七音として数えましょう。）」

はるすぎてなつきにけらししろたへのこころもほすちようあまのかぐやま

持統天皇

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましよう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましよう。

--	--	--	--	--

（意味）

いつのまにか春が過ぎて夏がやってきたようだ。夏になると干すという真っ白な衣が、天の香具山にたなびいている。

学 年

中・高

言葉のリズムを味わおう（百人一首5）

年 組 氏名

一、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。（「ころもほすちよう」は七音として数えましょう。）」

はるすぎてーなつきにけらしーしろたへのーころもほすちようーあまのかぐやま

持統天皇

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

はるすぎて

なつきにけらし

しろたへの

ころもほすちよう

あまのかぐやま

（意味）

いつのまにか春が過ぎて夏がやってきたようだ。夏になると干すという真っ白な衣が、天の香具山にたなびいている。